

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1 学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教務部(グレードアップ推進部)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「保護者及び生徒を対象とするアンケート」においては、教育方針や教職員関連項目での肯定的な評価が9割を超えている。家庭との連携に関する項目に課題が見つかった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業の重視と生徒の主體的な学習態度の育成 ◇全校体制による授業改善 ◇単位制への改編の推進 ◇内規の改訂	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各分掌、学年会、教科会との緊密な連携 ・部内の効率的、有機的な業務展開及び業務内容の推進	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 1年次生への初期指導の工夫と充実 (2) 3年間を見通した学習支援資料「学習シラバス」の充実と活用 (3) 効果的な教育課程の運用と見直し (4) 公開授業・研究授業・研修等を通じた授業改善・教科指導力の向上 (5) ホームページや広報誌の効果的な活用 (6) 単位制に則した内規の改訂 (7) 主権者教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各種考査(外部模試を含む)の結果分析 (2) 各教科による生徒の「授業アンケート」の分析 (3) 各種行事終了後のアンケート実施と分析 (4) 「保護者及び生徒を対象とするアンケート」評価の分析 (5) 教育課程運用上の課題の集約 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生に対して、入学直後のオリエンテーションを充実させ、初期指導を徹底した。 ・年2回の授業公開月間により、生徒による授業評価、教科会を実施し、授業改善に努めた。 ・単位制を含めた教育課程の運用を各教科、分掌、学年と連携して推し進めた。 ・生徒全体に目を向けた学習指導の一環として『岐高基礎講座』を企画、実施した。 ・学校ホームページの更新を行うと共に、学校案内の更新を行い、高校見学会、中学校の保護者の訪問時等に配布した。 ・家庭との連携を複数の方法を用いて実施した。 ・高校見学(中学生向け、小学生向け)、岐阜市内県立普通科6校合同説明会を実施した。 ・主権者教育の生徒への啓発活動の一環として、講演会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員相互の積極的な授業参観や意見交換が行われたか。 ② 各分掌、学年会、教科会等と連携が取れていたか。 ③ 生徒全体に目を向けた学習支援・啓発活動等が推進できたか。 ④ 単位制を含めた教育課程の運用をスムーズに遂行し、課題を発見できたか。 ⑤ 内規の改訂を推進できたか。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に必要な教育課程の運用 ○中学生の保護者、県外高等学校やその他教育関係者の本校への訪問や視察に向けの本校の概要を説明した資料(学校HP、学校紹介用プレゼンテーション、学校要覧、学校案内等)の更新し、それらを効率よく利用した。 ○学習相談会、岐高基礎講座、補習授業等を実施し、生徒全体に目を向けた学習支援を推進し、学力の向上に努めた。 ▲教員相互の授業参観、生徒・保護者による学校評価や授業評価、教科会をより充実させ、いっそうの授業改善と評価方法の工夫が必要。 ▲家庭との連携を複数の方法でさらに密にする必要がある。 ▲高大接続、大学入学共通テスト、新学習指導要領等、引き続き研究する。 	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制を含めた教育課程の運用について検証し、充実に向けて課題解決を図る。 ・生徒・保護者による学校評価や授業評価の結果を分析するとともに、教員相互の授業評価により、主體的・対話的で深い学びに繋がる指導と評価方法について、教科の枠を越えて研究・実践に努める。 ・家庭への連絡を、必要に応じて文書、ホームページ、すぐメール等を組合わせて実施する。 		

2	評価する領域・分野	◇進路指導部（キャリア形成支援部）		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者からは適切な情報を示し生徒の可能性を引き出していると高い評価をいただいている(A, Bの評価生徒約87%) ・総合的な学習の時間、放課後等の活動を横断的に調整し、キャリア設計の支援を行う必要がある。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇自己理解の深化を図る指導の充実 ◇主体的に進路を選択し決める定能力の育成 ◇教科学力の充実を目指した指導の展開 ◇キャリア形成支援事業の推進 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・1、2、3年の各学年会、各分掌、各教科との連携・協力をはかり生徒の進路実現のための協力体制を作る。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の能力・適性を理解するための援助 (2) 進路情報の提供・個別相談等による進路選択決定能力の発達を促す (3) レベルの高い授業、課題講座、補充サポートの実施 (4) 多様なグローバルリーダーを養成するプログラムの企画運営 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路意識調査の活用、個人懇談 (2) 生徒保護者対象アンケートの分析 (3) 各種考査・外部模試の分析結果 (4) 卒業後の追跡調査 		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントセミナーat 東大を実施した。 ・医学部希望者（1、3年生）に対する入試ガイダンスを開催した。 ・1年次生に To Do Check シートにより学習評価、振り返りを年3回実施した。 ・進路指導資料を充実させ、活用しやすい環境を提供した。 ・グローバルリーダー養成事業で、生徒の意欲関心を高めるプログラムを実施した。 ・系統的なキャリア形成を促すために、職業・学問研究、読書会、PSセミナー等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的に自分の進路を考えさせることができたか。 ② 大学進学を目指す学力を身につけさせることができたか。 ③ 生徒、職員に計画的に資料を提供し、整備ができたか。 ④ 各種プログラムの立案・実施・調整 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D 	
11	成果・課題	○ 卒業生・OBとの交流機会の提供により、生徒及び保護者アンケートから、「適切な進路指導をしている」の項目で高い評価を受けた。(A, B評価 生徒 87%、保護者 90%)		総合評価 A (B) C D
	○ F P室に適切な資料を精選整備し、適切な時期に教室・廊下等に情報を掲示するなど、生徒・教員に対して確かな進路支援情報を提供することができた。	○ 学習評価を定期的に振り返るTo Do Checkシートにより、自分の生活を反省し、次への目標を立てることができ、進路指導の充実を図ることができた。		
	▲ To Do Checkシートの記入の簡略化と内容の見直しが必要である。			
	○ 「グローバルリーダー養成事業」「総合的な学習の時間」を通して、生徒が興味関心を広げ、将来的な進路選択に役立つ企画を立案実施することができた。			
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・「グローバルリーダー養成事業」や「総合的な探究の時間」（F P T）等を有機的に実施し、生徒が主体的・意欲的にキャリア形成を意識し行動する系統的なシステムの構築を図る。 ・実力テスト・外部模試等の結果を精査し、教務部、学年会、各教科等と連携し、生徒の進路と学力に応じた手厚いサポート体制を充実する。 ・学習到達度評価及び面談シートである「To Do Checkシート」のより有効な活用方法を検討する。 ・高大接続に向け、活動成果や学びを記録したポートフォリオの作成と有効な活用法を研究する。 		

2	評価する領域・分野	◇生徒指導部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な社会規範やマナーを身につけさせる」「服装・頭髪等の指導」項目では生徒・保護者とも9割以上が肯定的な回答を得られた。 ・「学校はいじめや差別を許さない」の項目は、生徒・保護者とも昨年度より肯定的な回答が増えた。(生徒78%→87%、保護者62%→71%) アンケートの有効な活用などで、いじめに対する意識の醸成が進んだ。 ・「教育相談」の項目(保護者のみ対象)は、昨年度より肯定的な回答が増えた。教育相談活動についての広報が浸透してきたと考えられる。 ・一方、教育相談・いじめの項目では他と比べて「わからない」の回答も多いため、機会を捉えた広報が必要である。 		

4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「生命」を大切にする心や態度の醸成 ◇基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成 ◇個に応じた適時・適切な指導		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年の会議に生徒指導部の生徒指導担当、教育相談担当が加わり、生徒の問題について情報共有を密に行う。 ・生徒指導委員会、いじめ防止等対策検討会議、人権教育委員会等において、一貫性のある指導方針を立てる。 ・渉外部と連携して、保護者への情報発信を行う。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 生命の大切さ、交通事故防止、情報モラルの指導の充実。 (2) 主体的に行動ができるように促す。 (3) 懇談等を通して、生活・進路の指針を明確にさせる。	(1) 交通事故件数、いじめ迷惑調査、学校教育ネットパトロール報告件数などの統計数値。 (2) 日常生活における生徒の様子の変化。 (3) 生徒保護者対象アンケート、教育週間の保護者や近隣住民対象アンケートの分析。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	・「命の尊さ」講話、集会での交通指導、情報モラル指導を行った。また、いじめに関するメッセージを発信した。 ・学年と連携し、身だしなみや遅刻の指導を組織的に行った。 ・年3回の担任との個別面談を実施し、生徒の悩みの把握や、進路指導に努めた。また、教育相談を組織的に積極的に行った。職員研修実施。	①交通事故件数減少、交通ルールの遵守、情報モラルの遵守が達成できたか ②基本的な生活習慣が確立されたか ③個に応じた指導を連携して行えたか。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D	
11	成果・課題	○講話や人権LHR等を通して、自他の命を尊重する態度・意識を高めた。問題発生時にも管理職の指導の下、素早く対応することができた。 ○教育相談では、学年と生徒指導部が情報共有し一貫性をもって対応できた。必要に応じて外部機関とも連携し、対応することができた。 ▲情報端末について、家庭では使用のルールを決めず学校任せになっている生徒が一定数いることが生徒アンケートから分かった。個人情報への意識の低さ。 ▲外部の方に挨拶ができないとの意見をいただくことがあった。		
12	来年度に向けての改善方策案	・「生命」の尊重については、来年度も中心課題として取り組む。行事を精選し、より充実した内容にし、テーマを明確に示して実施する。 ・情報モラルについての講演を、1年生のみから全学年対象とする。不適切使用については個別の指導をその都度行う。保護者に対しても情報を発信し、家庭でも責任を持っていただく。 ・挨拶ができるような指導を生徒会と連携して行うなど、取り組みについて工夫する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月4日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難易度の高いレベルの授業を展開することで、全ての分野に秀でていなくても特定の分野で活躍できる人材による「人材群」を形成することで、学校全体としてのバランスを取るとよい。 ・優秀な生徒が特定の分野（特に医学部）に進学するのではなく、物作りやイノベーションに関わる分野にも優秀な人材を輩出してほしい。 ・生徒一人ひとりに対応した丁寧な指導を、授業や部活動で展開されているが、先生方の業務バランスがうまく取れるような工夫をしてほしい。 ・部活動では高校生同士や学校間の競争により意識や力の向上を図るだけでなく、もっと高いレベルの一般人の大会に参加することで、より一層知識や技術が磨かれるのではないかと。
